レジデンス便り（はるまつり特集）第232号

発行：レジデンス日進家族会



4 月 25 日（金）にレジデンス日進・上ノ山ホームのはるまつりが開催されました。

新型コロナウイルス感染症により途絶えていた家族会の全面参加、屋上の活用、開催日を土曜日から平日（金曜日）への変更など、企画の段階では様々な不安もありました。

ただ、それも家族会による屋上の整備、開催日前日の明るく元気に机や椅子などを運ぶ職員の皆さんの積極的な動きから、「明日のおまつりは大丈夫！」と心配ごとは消えました。

協力し合って昼食づくり

利用者・家族・職員が参加して昼食づくりをしました。メニューは屋上では焼きそばとチャーハン、地域交流スペースではサンドイッチでした。



当日は風が強く、急いで焼き台を移動させなければならない場面もありましたが、無事に食事を用意することができました。



何故か慣れた手つきで焼きそばとチャーハンを炒める利用者、トングを使って器用に焼きそばのパック詰めをする利用者、きれいに食パンの表面にツナマヨを塗る利用者の様子から「できること」の新たな発見がありました。





各ユニットで創作活動

昼食作りに参加しなかった利用者はメッセージカードを作りました。

毎週金曜日の午後は創作活動の時間ですので、慣れた感じで色鉛筆やクレヨンなどを持って、集中して絵を描いたり、色を塗ったりしてくれました。





ちょっと疲れてひと休み

家族会の皆さんは食事づくりが終わり、昼食まで淹れたてのコーヒーを飲みながらしばらく休憩。久しぶりに会ったご家族同士でそれぞれの近況報告など会話が弾んでいたようです。



お昼ご飯です

おまつりの新企画、屋上でお昼

を食べました。風に吹き飛ばされないよう食べ物を必死で守りながらの食事でしたが、「強風で大変だったけど楽しかった」と記憶に残るといいのですが・・・

お花がきれいに咲いていたことも記憶に留めておきたいです。







和太鼓の発表

今回のおまつりの目的が、日頃の利用者と職員の様子を家族の方々に「見てもらう・知ってもらう」でもあり、和太鼓の発表はどうしてもやりたい企画でした。



前半は月１回の和太鼓活動に参加している利用者が中心となって発表をしました。指導してくださる國島先生には事前に「いつもどおりにやってほしい」とお願いをしてありましたが、おまつり担当者の意図を理解していただき、先生がいつものままを再現してくださいました。國島先生と参加利用者の再現性の高さには驚きました。



後半は、日中にメイトウ・ワークス、天白ワークス、はまなすを利用している利用者も参加してくれました。國島先生を中心に職員も参加しやすい雰囲気を作ってくれましたので、太鼓に触れる機会のなかった利用者にとってはいい経験になったのではないかと思います。

午後から散歩

大きな音や大勢の人、毎日のルーティンの変更等が苦手な利用者は和太鼓の時間帯にマイクロバスで散歩に出掛けました。



おやつタイム

最後はコーヒーとパンをいただきながら利用者と家族と職員、特に家族と職員の交流の時間がユニットごとに設けられていました。



ホームはデイ 1F の食堂でおやつタイムでしたが、各事業所に戻らなければならない利用者が多かったため、そのまま家族の方も帰られたりと、交流という感じではなかったそうです。設定が悪く申し訳なかったです。

家族会役員会にて

役員会でおまつりの感想を聴かせていただきました。

事業所からの説明不足が原因で家族の皆さんには「あれっ？」「どうして？」と不安や疑問を感じられたこともあったようですが、それ以上に良かった、楽しかったというお言葉をいただきました。

個人的な感想になりますが、当日もそうでしたが、お話をうかがって、利用者に楽しい時間を提供したいという思いを共有して、家族の皆さんと職員がいっしょに何かをやりきることの充実感がありました。ご協力いただきありがとうございました。

はるまつり担当職員３人には、利用者・家族・職員が満足できるイベントを企画してもらいありがとうございました。